



# 会報

2018 ▶ 2019  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ  
会長目標

親睦と奉仕、  
閃きと実行

インスピレーションになろう

会長／大嶋 孝広 幹事／堀 光輝

## プログラム

(第30号・第31号・第32号) 合併号

- 本日  
来賓卓話「目からウロコ!? 白内障の最新治療」  
オロンライン眼科 医師 谷 智文様
- 次週予定  
「IM開催に向けて」 会員研修委員会

No. 2816

第30回 2月27日

出席報告

前例会

会員総数	35名
出免会員	2名
出免出席	2名
基準会員出席	17名
出席率	54.29%

前々例会

第27回 2月6日

欠席会員	0名
内メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



## 会長報告

- 留萌南部ブロック特別支援学級合同学習会 卒業を祝う会のお礼が届いております。
- 留萌市より、地域公共交通セミナーの開催案内が届いております。
- 次年度のガバナー公式訪問の日程が決まったとの連絡がありました。予定ですが、留萌クラブは7月10日の第2例会です。次年度の方々は大変でしょうが頑張ってください。

- 国際ロータリー年次大会の案内を受領しました。
- 次週例会は移動夜間例会ですが、アルコールの提供はございません。飲まれる方は例会終了後か二次会にて楽しんで下さい。また、当日は午後6時45分点鐘ですので、お間違えないようにお願いします。



## ニコニコBOX

- 少し良い事がありました。 大嶋会長
- 良い事がありますように。 鈴木会員



## 幹事報告

- 砂川RCより、9月からの1月までの会報を一括受領しました。
- ロータリーの友事務局より、次年度のロータリー手帳購入の案内を受領しました。

前回	684,152円
今回	4,000円
累計	688,152円

 プログラム……………

「留萌高校を甲子園へ」

留萌高等学校 教諭 土清水 賢一様

本日の卓話に先立ちまして、昨年10月に皆様へ急なお願いだったのですが、元読売ジャイアンツの川原選手の野球教室に対して多大なるご



協力を賜り、誠にありがとうございました。子供達も非常に喜んで無事終了する事が出来ました。今回この様な機会を頂き、皆様にお礼を言う機会を与えて頂き感謝申し上げます。

本日資料を用意しました。普段、子供達の前で話す事はありますが、この様に諸先輩方前で話すのは大変緊張致します。まずは、私のプロフィールからお話を致します。私は現在、留萌高校で教員をしておりますが、留萌には縁がありまして、生まれたのが留萌市立病院です。今の病院ではなくて昔の寿町にあった病院です。出身は羽幌町で現在も実家が羽幌町にあり、両親と弟が住んでおります。その後、高校と大学は管外にでしたが滝川西高校の会計ビジネス科と北海学園大学の経済学部経営学科を卒業しました。その後、教員として遠軽郁陵高等学校に採用になり、3年間の勤務を経て天塩高等学校に赴任して来ました。天塩には8年間勤務させて頂き、現在留萌高校に赴任して通算4年間勤務させて頂いております。皆様もご存じの通り、留萌高校と留萌千望高校が統合しましたが、私は旧留萌高校への赴任でした。

現在、北海道留萌高等学校の生徒指導部長という立場を与えて頂き、生徒指導を先頭に立って進めさせて頂いております。また、それに関わる色々な役職等や生徒に関わる事についての事を主に仕事をさせて頂いております。私の専門教科はあまり皆様になじみがありませんが、商業でございまして、元々普通科の高校にいる事が多く、校長先生にも教科を忘れられ、野球以外に何かあるのかと言われていた状態でした。

本日の本題である野球に関しましては、様々な全道大会に出場させていただいたり、高野連旭川支部でも事業検討委員会というものに所属させて頂いております。この事業検討委員会というのは、少年野球・中学校野球をさらに普及させるために旭川支部としてどういう取り組みをしていくかを考える委員会で、この様な団体にも所属させて頂いております。以上が私のプロフィールでございます。

本日のお話は、タイトルを留萌に明るい未来をとさせて頂き、お話をさせて頂きます。先ほどの紹介で話されましたが、留萌高校は昭和46年に甲子園に出場した伝統校であります。その伝統校に赴任して、様々な事を学ぶ機会や、経験をさせて頂きました。赴任してまだ4年目ですが、私の感じている事やこれからの留萌の教育、野球に限らずスポーツ全般に私の考える必要な事、私の思いをこの資料に書かせていただきました。簡単に説明をさせていただきますと、まず課題として教育分野では、留萌では留萌千望高校と留萌高校が統合し一つの学校になりました。これまでは留萌市内で留萌千望高校と留萌高校とに学校が分かれておりましたが一つになる事で、留萌市は子供達を一貫した先を見据えた教育を地域と連携しながら情報共有をしてやっていくのが、これからの課題ではないかと思っております。それは何故かと申しますと、学校単体では現在の多種多様な社会情勢にマッチングした人材の育成がだんだん難しくなっているからです。社会で求められる事がこれまで以上増えてきている中で、学校の教育だけではなくて、地域の皆様方のお力を借りながらやっていく事が必要不可欠であると私は考えております。これは教員として、地域の子供達を地域のために、地域全体で育てる感覚が必要で、現代の子供達が抱える悩み、問題に対応していくための地域一体となった体制づくりが必要です。留萌市内唯一の高校として、留萌管内の拠点校としての教育力の維持・向上を常に目指す事が必要不可欠と考えています。しかし、教員は地域の方々や保護者の方々と関わる事が不得手と申しますか、あまり得意では

ございません。教員もその辺を考えて対応する必要があると思います。現在、指導部長をさせていただいておりますが、子供達の様子が非常に変わってきていて、前任の天塩高校を含めて、生徒指導部長として停学や退学という案件で、飲酒、喫煙、万引き等で指導した事がこの9年間で1回もございません。昔はこの様な事例が多かったのですが、現在はネット上のトラブルや人間関係のトラブルが非常に多く、今の子供達の抱えている問題と言うのはどんどん変わってきて、我々教員でも付いていけないような状況となっています。その様な中で、留萌管内の拠点校として様々な形で教育力を向上させていく事が求められています。

野球の分野では、留萌市はこれまで、甲子園もそうですが、プロ野球選手も数名輩出しており、北海道内でも非常に野球処として知られる街だと思っております。但し、野球人口が全国的に減少しており、それが問題になっております。少子化の問題が一番ですが、他のスポーツが台頭がしており、サッカーなどは地域一体となって、幼稚園から高校、大学、クラブチームまでという形で素晴らしい形を作っておりますが、野球はどうしても親が積極的に関わらなければならない事。そして練習が長くて休みが無い事。あとお金がかかる。この3つは野球界では色々と言われている事で、親御さんが子供に野球をやらせる時に二の足を踏む3大原因だと言われています。留萌市ではないのですが、様々な方とお話をさせて頂く時に、例えば保護者が指導者の食事を用意しなければならないとか、飲み物も用意しなければならないとか、保護者が指導者の洗濯もする等その様な現状もあるようで、野球界はそれまで胡坐をかいていたと言う訳ではないですが、これまで当たり前の様に野球中継がなされ、NHKで高校野球が全試合放送されるなど、人気スポーツとして胡坐をかいてきた部分があるのではないかと思います。これからは野球のそんな所を変えていく必要があるのではないかと思います。今の子供達にはただ単に野球でもバレーボールでもサッカーでもスポーツをやる事だけではなくて、ス

ポーツプラスαを与えてやることを考えていかなければなりません。私が天塩高校と留萌高校で取り組んできた事を書かせていただきましたが、私自身、留萌管内の出身ですので、これが私の強みだと思っておりますが、天塩町でも留萌市でも、私がお世話になった方との繋がりや、保護者や先生など様々な人と連携を取る事が出来ております。あと練習の効率化です。野球に限らず“練習を始めると練習時間が長い”“朝練がある”“夜遅くまで練習する”そういうイメージがあるかと思いますが、練習は公共交通機関で通って練習する事が可能な状態を作る。留萌市の子供達だけなら良いのですが、市内の子供達なら少し早く自転車で来なさいとか、帰りも一人で帰らせる事も可能ですが、小平・増毛町の子供達になりますと色々大変で、それらの近隣町村に目を向ける事が大切ではないかと思っております。現在、苫前町から通っている子供もおります。3つ目ですが、この3つ目が今、野球部の指導で一番力をいれている所で、部活動が原因で勉強が出来ないとか、その様な問題は別で、逆に部活動に入っているからこそ勉強が出来る、そういった部に転換する事を実践しております。考査期間中の勉強会実施、オフのシーズンは常時勉強会を開催。これは異色な事で、様々な方から質問を受けましたが、私が15年間部活動を指導してきている中で、若い頃は自分が何でも出来ると思って、分かっている事、指導について、細かい技術についてかなり教え込んでいる時期がございました。かなり厳しく練習をしたり、長い時間生徒を拘束した時期もございました。これらを通して練習自体が意味が無いと言う訳ではございませんが、練習をしている割に何でこの子供達は能力を発揮出来ないのかな、とここ数年考えるようになりました。なぜ勉強かと申しますと、これは私自身の経験が一番大きいのですが、野球以外の事をやらせてみたいと思いました。野球の練習だけではなくて、様々な地域の方々ともふれあう事。学校では6時間授業ですが、一番長いのが授業ですからそれを真剣に取り組む事。この事から人間の成長を促せればと考え、現在勉強をさせており

## 第29回 2月20日(水) 天候/晴

ます。子供達は現在どういう様子かと申しますと、私の感じる感覚では、元々真面目な子供が多く、私が話をすると、それが入っていくなと感じます。ただ聞いているのではなく、こちらの話しているのをしっかり受け止める様になってきたと感じています。集中力も向上してきており、ある生徒と話したことで「卒業したら何をしたいんだ」と聞くと、「これまで部活動で勉強した事で大学に行って勉強をしたくなった」という返事が返ってきました。あるいはより上の大学を目指す、という言葉も返ってきました。その時私が感じたのは、部活動も大切ですが、部活動が理由でその子の可能性を摘んでいた部分がもしかしたらあったのかなと、最近感じております。部活動の中で技術などを教えるのも大切ですが、生徒自身の成長を考え、生徒の可能性を拡げてあげる活動をしていきたいと考えております。あと、お金がかからないように工夫をしています。野球部の年間経費を6万円以内、これは遠征費等もすべて含めての金額です。この値段が高いか安いかは北海道内の野球部で言えばかなり安い方だと思っております。野球以外の部活動でもバス等の金額が上がっており、例えば旭川に行くだけでも8~9万円のお金がかかってしまいます。あとは閉鎖的な高校野球からの脱却という事で、フェイスブックやホームページを使って積極的に情報を発信するようにしています。これらの取り組みの成果とは言いませんが、部員数では天塩高校では最小4名の部員が最大34名になり、留萌高校でも最小が6名から昨年の夏、最大39名になっております。現在は1年・2年生だけで28名の部員がおります。部員の学習面の成果として、天塩高校では野球部員の数字で、国公立大学に6名、公務員6名、進学後に教員となった者が2名、進学後に公務員になった者が14名でした。留萌高校はまだ3年しか卒業生を出していませんが、国公立大学に4名、公務員に3名で、今後数年で更に活躍する生徒が出て来ると思います。

我々の部活動は目に見えない地域の応援があり、部活動に対する補助金、室内練習場の建設(天塩町)だとか、グラウンド維持管理(鹿児島建

設)の協力があり、留萌高校でもグラウンド移転、室内練習場建設の協力(堀口組)、グラウンド雪割(堀口組、堀松建設)などの協力をいただいております。また、今回の川原純一少年野球教室には、ロータリークラブの有志の皆さんにご協力いただいております。物資だけではなく、応援等も含めて多くの地域、OB、OG、保護者の方にお世話になっております。

学生スポーツは勝利至上主義であってはならないという、駅伝でも有名な青山学院の原監督もおっしゃっていましたが、組織が発展していくためには勝つことも必要ではないかとも思います。学校における部活指導のこれからとして、教員の残業時間の削減も考えていかなければならない事だと思っております。先生も部活指導の負担軽減として週2日の休養日、外部指導者の活用などです。しかし、これらも地域における格差につながりますので、学校間の格差や教員間の格差もあります。それが地域や保護者の不満につながる事がありますので、注意しなければいけないと思っております。都市部では学習面は塾に通い、スポーツ面ではクラブチームやトレーニングスクールに通って、個人で強化を図っております。札幌市においてもこのような教室が出来ており、ネットの時代ですから、動画のやり取りによるレッスンなども出て来ています。この様な事から懸念されるのは学習面でも同じで、ゆとり教育が推進されて20年以上経ちますが、最初、学力点数に関しては全国的に落ちましたが持ち直しております。これは何故かと申しますと、危機感を感じた保護者が塾などに通わせたり、学校以外に労力をかける事によって、学力が向上したという事がございます。国の政策としてこれが全て間違っているとは言いませんが、私自身考えるのは、これから先、今の子供達がより良くなっていくには、地域と学校が協力し合って子供達を育てていくという感覚が必要なのではないかと考えます。例えば、留萌高校に関しても昨年から入試の形が変わっております。普通科では裁量問題が採用されています。入試においてレベルの高い問題を採用するという事を旭川や札幌市の高校で取り入れて、昨年



留萌高校もそれを取り入れました。その結果、入試の平均点がかなり下がりました。しかし、進学校と呼ばれる旭川東高校とか札幌南高校などでは、次の年にしっかり持ち直しております。これは何故かと申しますと、学校の不足分を塾などに通って補ってきたからです。目には見えない形で、様々な格差が生じてきている現状で、我々は外に目を向けて、子供達を育てるために出来る事を考えていかなければならないのかなと言う事を強く感じています。これはあくまで私の考えている独断の構想ですが、野球では幼稚園・保育園から小中高一貫した指導体制の確立を考えております。実はこれは既に一部進行している所があり、小平町の少年野球チームが特に積極的にそういった活動をしてきております。これを管内全体のレベルアップに繋げていきたいと考えています。懸念されることはありますが、だからこそ全員が一体となって様々な事に取り組んでいく必要があると思います。

もう一つは女子スポーツの振興です。テレビ

等を見ますと、女子スポーツが世界的に広まっています。野球に関しては、少年野球は女子の選手が居なければ成り立たないチームがたくさんあります。学校としても女子を含めたスポーツの取り組みを考えていかなければならないと思っております。

教員一人の力ではどうする事も出来ない事もありますし、学校だけで出来る問題でもないのでかなとつくづく感じております。私自身、留萌管内で生まれて、留萌管内に育ててもらった人間として、今留萌高校で自分が出来るのは、留萌地域のために野球に限らず、留萌地域にいる子供達のために、何か手を打っていく事なのかなと常日頃考えております。これから非常に難しい時代になっていくかもしれませんが、留萌高校は何とか全職員で協力しながら、子供達を育てていきたいと思っておりますので、これからもどうぞご協力をいただければと思います。

今回このような貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。以上で終了です。

## プログラム

(第30号・第31号・第32号)合併号

- 本日  
「IM開催に向けて」 会員研修委員会
- 次週予定  
「タイ検証ツアー報告会」  
西谷 英樹 会員・燕 美雪 会員

- 会員誕生日  
山 根 達 也
- 配偶者誕生日  
中 井 美 鈴

No. 2817

第31回 3月6日

出席報告

前 例 会	会員総数	35名
	出免会員	2名
	出免出席	2名
	基準会員出席	20名
	出席率	62.86%

前 々 会	第28回	2月13日
	欠席会員	14名
	内メイクアップ	1名
	修正出席率	62.86%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

## 会長報告

- 2月21日に第9回定例理事会並びに第5回クラブ協議会を開催し、3月4月の例会プログラムと創立記念夜間例会決算について、3月理事会日程の変更についてを承認しました。

## 幹事報告

- 留萌健康の駅より、3月2日に開催される目の研究事業成果報告会開催の案内を受領しました。締め切りが明日になっておりますので、参加したい方は幹事まで連絡下さい。ちなみにこれは皆様方が例会で受けた検査などがデータとなっております。

 **ニコニコBOX** .....

- 谷先生、本日はありがとうございます。  
大嶋会長
- 谷先生、本日は講演頑張って下さい。  
西原会員
- 谷先生、留萌ロータリークラブへお越しく  
さりありがとうございます。 燕会員
- 松村さん、入会おめでとうございます。  
照井会員

前 回	688, 152円
今 回	6, 000円
累 計	694, 152円

 **プログラム** .....

「目からウロコ！白内障と老眼のお話」

オロロンライン眼科 医師 谷 智文様

私は、増毛町信砂の天総寺というお寺の次男坊として生まれました。昔からお経が下手だったものですから、次期住職は一つ上の兄と決まっておりました。私は、「何か手に職をつけねばなるまい」と考え、鼻血が出るほど勉強をして舎熊小学校→増毛第2中学校→函館ラッセル高校へ進学しました。そして札幌で1年間浪人生活を送り、国立旭川医科大学へ進学しました。

卒業前に吉田晃敏教授（現旭川医科大学長）より熱烈な勧誘を受け、眼科医を志すことになりました。その後、大学院へも進学し医学博士となり、旭川医大の特命助教を命じられ、留萌市立病院眼科医長として勤務しました。市立病院時代は、年間700件近くの白内障手術を執刀し、新記録を樹立しました。この頃より、「やっぱり旭川よりも地元の患者さんを治療する方が好きだなあ」と留萌での開業志向が出て参りました。

大学に戻った後は、診療助教を命じられ、網膜静脈閉塞症、網膜剥離などの専門治療や世界最新の眼血流測定装置の開発、研究を行ってきました（現在も当院で臨床研究を行っています

『無料で血管年齢が分かりますので被験者として参加しませんか？』。その傍ら、出張病院は主に留萌市立病院、羽幌道立病院を中心に、オロロンラインの眼科診療支援を継続的に行うことができました。

そして平成29年5月に留萌市五十嵐町で「オロロンライン眼科」を開設させて頂きました。大学病院にもない最新の白内障手術マシーンを岩見沢以北の北海道で2番目に導入し、安全、安心な日帰り白内障手術を実践しています。

「老眼も低減させる最新の多焦点レンズを用いた白内障手術」を留萌、宗谷、空知管内初で行い、厚生労働省認定の先進医療認定施設となりました。これにより、生命保険で先進医療特約に加入されている方は、当院で手術を行うと高額な多焦点レンズの手術費用が給付されることとなります。

最近では、高額な多焦点レンズでなくとも通常の保険診療での白内障手術においても、なるべく術後にメガネが必要にならないように、独自の工夫を凝らしたピント合わせ技術（裏メニューと呼んでいます）を実践し、良好な結果を得ています。

さらにこの卓話では、老眼治療についてもお話させて頂きました。色々な方法があります。①一般的な遠近両用メガネ、②パソコン用の中近両用メガネ、③遠近両用の使い捨てのコンタクトレンズ、④一般的なコンタクトレンズ+手元のみ老眼鏡、⑤裏メニューの白内障手術（保険適応）、⑥プレミアムな多焦点眼内レンズを用いた白内障手術（前述した先進医療）、⑦ICL（当院では行っておりません）などです。

留萌は一般的に北海道の田舎の地方都市と思われがちですが、私のモットーは「留萌だから…」ではなく、「留萌なのに凄い!!!」です。札幌や旭川の眼科よりも、留萌のオロロンライン眼科はめちゃくちゃ進んでいる！と思わせるよう、どんどん最新技術を習得し、地元へ還元したいと強く思っています。

## プログラム

(第30号・第31号・第32号) 合併号

●本日

「タイ検証ツアー報告会」

西谷 英樹 会員・燕 美雪 会員

会員誕生日

青 山 貴 幸

●次週予定

「P E T S 報告会」

富士エレクト・西原次年度財団委員長

結婚記念日

燕 美 雪

No. 2818

第32回 3月13日

出席報告

前  
例  
会

会員総数……………35名  
出免会員……………2名  
出免出席……………2名  
基準会員出席……………21名  
出席率……………65.71%

前  
々  
会

第29回 2月20日  
欠席会員……………16名  
内メイクアップ……………2名  
修正出席率……………60.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



## 会長報告……………

1. 国際ロータリー第2510地区より、ライラセ ミナーカウンセラーの研修会の案内が届いております。受けてみたいと思う方は幹事まで連絡下さい。
2. 国際ロータリー第2510地区より2019～2020 年度地区研修協議会の開催案内が届いております。次年度の役員の皆さん、いよいよ始まりますので頑張ってください。

前 回 694,152円  
今 回 7,000円  
累 計 701,152円



## プログラム……………

「IM開催に向けて」

森(幹)会員研修委員長

従来のIGF(インターシティ・ゼネラルフォーラム)都市連合一般討論会と言われていたものです。近隣都市の数クラブが集まってロータリー情報及び教育の手段として研究・討論する会合ですが、ロータリーの規約の中にはIMに関する取り決めはありません。IMを開催するか否か、時期、内容、主催者等は全く自由とされています。日本ではガバナー補佐が主催者となって殆どの地区で開催されていますが、外国ではあまり開催されていないようです。

テーマはロータリーに関する事、一般社会の出来事、その時の話題になっていること、その都度考えなければならない問題点など、多岐にわたります。形式も講演、フォーラムなど色々あります。この会合では、知識を広め深めるとともに、グループ内の会員の親睦も重要な目的ですから、懇親会も併せて開催されます。

国際ロータリーでは1969年の理事会決議で、RIの正式行事から当時のIGF、ICGFが除外され、それ以後は実施するか否かは地区ガバナーの裁量に委ねられる事になりました。そ



## 幹事報告……………

- 芦別ロータリークラブより、3月例会案内を受領しました。
- 深川ロータリークラブより、2月会報と3月例会案内を受領しました。



## ニコニコBOX……………

- 会員研修委員会の皆様、本日はありがとうございます。燕次年度幹事堀幹事の代役ご苦労さまです。 大嶋会長
- IMよろしくお祈いします。 鈴木会員
- 雪解けが早くてうれしいです。春よ早く来い！ 関野会員
- 良い事がありました。 松岡会員

の後、1889年に手続き要覧から標準クラブ定款の出席規定を除き、IMに関する記載が抹消されてしまいました。先ほど言いましたが、IMを開催するか等は全て地区ガバナーの自由裁量となっているようです。

### 「IMテーマ発表と挨拶」

#### 対馬ガバナー補佐

今年度5月12日に開催するIMは、基本的にガバナー補佐が主催するとなっておりますが、やってもやらなくても良いという事になっており、ガバナー補佐の判断に任されているようです。現在、道内2510地区12グループ全てで開催されていますが、各グループ単独で開催しなければならない訳ではございません。中には合同で開催されている所もあり、第1グループもかつては第2グループと一緒に合同で開催した事もございました。今年度も第7グループか第8グループと第10グループか11グループのクラブが合同でIMを開催する事となっております。第1グループもそろそろ合同で開催する事を考えても良いのかなと考えます。第1グループも4クラブだけですので、第2グループの赤平や滝川などの他クラブと交流を深めたり、情報交換をしたり、親睦を深めたりという事で、たまには第1・第2合同でやれば良いのではと提案しましたが、今回は単独で開催となってしまいました。

今年度開催のIMテーマは、「クラブの活性化と強化を目指して」という事で、最近少子高齢化で人口減少が続いている地方都市でありますから、ロータリークラブもかつての様な人数もいなく、特に留萌は100名を越すメンバーが現在は35名とかつての勢いが無く、例会出席率もなかなか上がらないといった現状です。やはり、これからは60周年に向けてという事もありますので、会員の拡大、組織の維持拡大を目指して今一度、地方クラブの活性化を目指していくべきだろうと考えます。特に留萌と深川はだいたい人口も同じ位で、会員も同じ位の人数で共通のテーマを常に持っているところです。ただ妹背牛はもう少し小さくて会員も一桁しかお

りませんが、同じ第1グループの中でも羽幌が44名の会員数がおり、人口の割合では会員の数が多く、留萌から見れば遥かに活性化したクラブなのかなと思います。そう言った地域の特性を聞きながら、会員の拡大をどの様にしたら良いか等を聞きながら、このIMでお互いに情報交換が出来ればと考え、このテーマでIMを開催する事を考えました。

特に今年度のガバナー方針でもあります、地域での認知度を高めていく事を目指し、若い人たちにロータリークラブがどういう活動をしているクラブなのかを知ってもらう事によって、将来の会員の拡大にもつながるという事で、地域での認知度を高めていくためにはどういう活動をしていくべきなのかという事など考えて、IMを進行していただければと思っています。鈴木実行委員長のもと、留萌クラブの皆さんの力をお借りしながら、実りあるIMにして行きたいと思っております。皆さん、どうぞご協力をお願いします。

